

件名	第1回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会		
日時	平成23年7月15日 10:00~12:00	場所	旭川市役所第三庁舎 旭川市保健所棟1階 講座室
出席者	<p>【出席委員】</p> <p>石崎委員、大野委員、寺島委員、成田委員、松倉委員 松野委員、丸山委員、宮崎委員、八重樫委員</p> <p>【事務局】 旭川市土木部公園みどり課 吉田課長、太田主幹、吉田係長 星主査、濱地主任、高田 (株)富士建設コンサル 2名</p>		
資料	<p>(資料1) 常磐公園改修事業基本計画について</p> <p>(資料2) 常磐公園改修事業基本計画懇談会スケジュール(案)</p> <p>(資料3) 常磐公園改修事業基本計画懇談会委員名簿</p>		
趣旨	<p>全体的な公園機能や緑の配置等について見直しを行いながら、文化芸術ゾーンにふさわしい公園づくりを進めるため、その指針となる「常磐公園改修事業基本計画」の策定について検討する。</p>		
<p>《概要》</p> <p>1. 開会 2. 旭川市挨拶 3. 委員自己紹介 4. 今後のスケジュール 5. 委員長・副委員長選出 6. 委員長・副委員長挨拶</p> <p>【議事】</p> <p>委員長が議事進行。旭川市より「常磐公園とその周辺の現況について」および「常磐公園改修事業の整備における基本的な考え方」の概要説明。</p> <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概要説明にもあった常磐公園の整備における基本的な考え方について意見を伺いたい。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ堤内の堤防の緩傾斜化が必要なのかということが読み取れない。イベント時の安全性などであれば、一部だけでよいのでは。一般市民に対してそこをどう説明するのかというところが気になる。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>傾斜の問題は、普段もすごく急斜面になっていて危険で、堤防の上を歩行者や自転車が相当いて、その方たちが公園に入りやすくするために緩斜をつけて、常磐公園と河川が分断されないようにするというので、前回の計画ができたと思う。</li> <li>花火大会では、堤防全体が人で埋まり、危険なためロープを張って、警察・警備員をずらりと立てている。警察から指示を受け、電球をつけて警備している。それで危険にならないような広い面積で緩斜をつけ、一体化させるのだと思う。</li> </ul>			

- ・全国公園 100 選にも選ばれ、市内の中心部でこれだけの自然が残っている公園なので、もう少し市民の方や観光客の方に来ていただける動線と駐車場の問題などを整備して、旭川の一つの魅力にしていければと思う。

(委員)

- ・森があることで、常磐公園だというふうに思っている。101 年という歴史を共有してきた木々を、生かせる木はぜひ残してほしいと思う。無くなってしまえばもう元には戻らないので、あの法面は熟慮を重ねて、その長い時を共有してきた木を次の世代に渡したいと思う。歩いて旭川の緑の豊かな流れを散策しながら花火大会にくるような、そういう町であってほしいなと思う。

(委員)

- ・冬まつりや花火大会は年中やっているわけではないので、年中利用する利用頻度の高い方にウエイトを置いて計画を立てたらいいと思う。
- ・音楽大行進の式典の場所にもなっている。今年は 95 団体 4000 人以上の参加だったが、音楽大行進というのは旭川の全道的に有名な行事だから、旭川を売る一つの行事として、河川敷のなかでうまく人の誘導できる歩道も改修の時には検討してほしい。

(委員)

- ・緩傾斜化というのは国の政策で行うものと理解している。親水という言葉が先行しているが、水の事故で亡くなっている人もいるので危険性に対してどうということをするのか。

(委員長)

- ・危険対策としては、例えばサインで近づいてはいけないというふうにやるのか、大きな塀をたてるとか、都市の中の本当の水の接し方の整備の幅だとか、場所だとかが関係する。それは後ほど、親水という大きな視点で話をしたい。

(委員)

- ・学校教育では、今までは川に行くなとしている。それを今度は親水空間を造ったから川に行ってみましょうとなるのか。その時は基本的な危ないという自己防御が、今の子には難しいのかなと思う。家庭教育から始まってそういう問題をどうするのかというところに及んでくる。

(委員)

- ・お祭りだとか何かイベントがあった場合、常磐公園がメインなので、駐車場はリベラインを使っているが、堤防の所に自転車が新橋まで駐輪している。それを整備している人はいるが、旭橋から曲がるところも全部渋滞し、入る人も入れない、出る人も出られない状態になる。それで、あそこの法面を広くして大型バスも全部きれいにリベラインに入れるようにするというこで、文化芸術ゾーン基本構想の時に開発建設部と討論した。
- ・ドロの木の花粉がものすごく、ラベンダーを植えているが、紫の花が咲くのが真っ白の花粉で埋まっている。6 月末から 7 月初めにかけて常磐通り全体が花粉でひどい状態になる。木が多いのもいいが、素通りしている人はそういうことが見えないから「木がいっぱいあったらいい」という話をされるが、住んでいる人間からすると、窓は開けられないし網戸はみんな真っ白になってしまっていて付いたものが取れないなどそういう状態

なので花粉のひどい木などは整備して欲しい。

- ・あまり木が多くても防犯上良くないし、夏でも常磐公園のメインの方には行くかもしれないが、プールから遊戯広場の方には人は数えるほどしか歩いていない。なので、できればメインの方の木を少し減らして花を植えて、みんなが花に携われるようなものを作ったほうがいいのではないかと思う。

(委員長)

- ・イベント時と平常時の危険、花粉の問題である。木の虫もそうだが、季節の風物詩というとらえ方が頭にあったが、近隣の方の迷惑ではある。

これは、物の価値観まで深く入る話で、みなさんが納得する答えにはなかなかならない話題だと思う。ただ、議論をするということはとても大事なので、今みたいなお話もこれから具体的なことに進んだときにお話しいただきたい。

- ・明るければ虫がよってくるし、暗ければ危険を感じる。そのあたりも場所や用途によりけりで、具体的な整備をするときに一律に行かないのが公園整備のあり方だと思う。

(委員)

- ・公園と河川空間の一体化は二つの意味があると思う。一つは人間が利用する場合の人間サイドから見た一体化。もう一つは自然環境サイドから見た一体化という部分があると思う。環境サイドからみると、水辺空間と常磐公園の緑のとらえ方で、コンクリートで機械的に固められた堤防左岸の高水敷で隔絶されている。私が必要だと思うのは後者の方で、そこを上手く自然環境的に連続させられるような一体化が図れないかと思う。

- ・常磐公園は都市公園ないしは総合公園であるが、人間がすべて園芸的に木を植えたり花を植えて造園的につくりあげた公園とは少し違って、開拓当時の樹木も残されている自然公園としての性格もあり、その両面を持った公園といえる。そういう点から、常磐公園や堤防の事だけに視点をあてるのではなく、緑の考え方を広げて旭川全体の環境構造、自然構造の中で常磐公園がどういう役割を担っているのか、とらえておく必要がある。

- ・工事主体と計画の関わりや堤防の場合は一体どうなっているのかがよく見えてこない。資料の工事予定では開発建設部が係わる常磐築堤改修工事が、上位計画のかわまちづくり事業の中で進行することになっており、この上位計画は常磐公園改修事業や文化芸術ゾーンの事業を包括する計画になっている。ここで議論することと関連があるが、それとは別に独自の開発建設部は工事を進めるのかどうかははっきりしない。もう一つは、河川用地が、堤防の両側の法面、それから延びる平地の部分のどの部分まで含まれるかがはっきりしないので明確にしてもらいたい。

(委員長)

- ・物の見方では、大きな川の流れの中で非常に硬い人工的な水辺になっていると思う。
- ・都市公園として、緑の全体像、総量が旭川はまだまだ少ないし、全体の位置づけ、役割が大事である。
- ・かわまちづくり計画は、上流の牛朱別川周辺の整備も含めて大きな部分であり、開発建設部側の工事予定と今回の議論の関連性を明確にしたい。

旭川市より「常磐公園改修事業の検討課題について」の概要説明。

(委員長)

- ・課題として何を考えなければならないのか、条件としてどこが大切なのかを整理したい。

(委員)

- ・公共の交通機関を利用して中心部に来る方の行動範囲が4条くらいまでで、4条以降が足を運んでももらえない。常磐公園の間近に、バスターミナルが出来れば、より多くの方が買物公園の4条以降に足を運んでももらえるし、将来常磐公園も上手く使えると思う。
- ・資料の地区の駐車場の不足とはどの範囲内の地区ということなのか。

(委員長)

- ・川のおもしろ館の跡利用にどんな整備をしたらいいのかということをここで検討する。
- ・常磐公園周辺に市民が誰でも車が止められるような大型の駐車場が全体として少ない。民賃の月利用はたくさんある。ここで言っている地区の駐車場不足というのは大きなイベント時の大量に来る車をさばききれないという意味である。

(委員)

- ・旭橋の上流は今、高水敷にパルプからの導水管の工事をしているが、旭橋下流左岸側はどうなのか。いつ頃して、工事の関係はどうなっているのか。既設の管は7年で駄目になって改修に入ったということで、これをちゃんとしておかないと何回も繰り返すことになるのでは。

(委員長)

- ・これは事実をはっきりさせておかないと議論が進まない所なので、わかる範囲で事務局よりご説明いただきます。

(事務局)

- ・牛朱別川の生活排水や工場排水を流水保全水路により下流の石狩川本流へ放流しているが、老朽化による工事を常磐築堤下流、上流の一部で改修を行っており、開発建設部では緩傾斜化とあわせて25年度くらいから着工したいという話を聞いている。同時期に公園の中や、川の中も24年度から入っていきたいと考えている。
- ・資料の地図のこれから議論しようとしているところはまだ入っていない。

(委員長)

- ・これは、次回までに少し技術的な所の答えを用意していただきたい。

(委員)

- ・常磐公園は緑が豊かだという表現があるが、私が見た限りでは決して緑は豊かだとは言えない。個人の感覚の問題ではあるが、非常に老朽化した樹木が多い。不特定多数の方が集まるところで、枯れ枝が落ち、倒木の危険があるというような状態で、管理する側も大変で、また市民側にとっても大変危険な部分がある。豊かな森という事じゃなく、非常に問題のある森だという見方で、今後緑の質の向上を図ってもらいたい。
- ・ドロの花粉の話があったが、ドロの木は雄の木と雌の木があり、6月上旬に綿毛を飛ばすのは雌の木である。雄の木を残して、雌の木を処理すれば、花粉の問題はクリアできる。ポプラも同じなので、樹種の選定では、そこを含めて審議してほしい。

(委員長)

- ・緑の質の高い公園とは例えば身近にあるのか。

(委員)

- ・成長も老化もしていくという生き物であり、一瞬としてとどまっていることもないので、一概に言えないが、どこも問題を抱えている。

(委員長)

- ・質を向上させると言うことは、その土地の用途、役割にとって左右されるのか。  
例えば都市公園と言いつけられて全体の中で大事にしていこうという森と、ほとんど整備していこうという森と。

(委員)

- ・常磐公園は本当の都市公園そのものだと思う。そういうことから利用する側と地域に住んでいる人との公園に対する思いが、多少ズレがある。どちらが良いか悪いかという話ではなく、そのバランスをどう取ってこの公園を維持管理していくかが重要だと思う。

(委員長)

- ・私もあそこは豊かだと言いながら老朽化も多く問題でもある。  
公園整備の中であそこにどんどん植樹しているということはあるのか。

(事務局)

- ・平成16年にあった台風で、古い木が倒れてしまってその代わりはかなり植えている。

(委員長)

- ・木も更新をしていかなければいけない岐路に立っているという認識である。

(委員)

- ・木を更新するとか補植をするという言葉は公園内ではふさわしくなく、あくまでも修景である。修景植栽の場合に誰がそこに何を植えてどういう植え方をするかということの判断が市民に伝わってこない。そこを何か良い方法がないのかなと、常々思っている。

(委員長)

- ・資料に組織体制という話があるが、プロの意見はなかなか継続されない問題点もあり、毎回プロは入って意見を聞くが、それが実施になって伝わらないということも今後の課題として解決しなければいけない。この席では特に自然環境、樹木のプロがいるので、そういう人たちの意見、判断が届けられるような仕組みが必要だと思う。

(委員)

- ・プール、お店、テニスコートがあるが、私はそれらの施設が常磐公園の風景にマッチしていると思う。改善しなければいけないものは木と同じで、見直しは必要だが、風景としても検討していただきたい。  
プールも何回も利用していて、古くはなっているが、あそこにあることで近隣の学校の子供達が来る事が出来るので必要だと思う。
- ・今よりきちっとしたお店で経営してほしいということは、伝えることは出来るが、公園の中に時と共に今のお店がありボート施設もありというのが、常磐公園そのものだと思う。今のままで良いわけではないが、時代の流れを切らずに次の世代に残してあげたい。

(委員長)

- ・公園全体の整備で、サイン、照明、景観など細かいところまで公園整備の物に関するルールを作っていくべきだと意見が出ればそれなりの対応を取るようになる。

(委員)

- ・資料に工事の予定図があり、23年度、24年度と出ているが、この懇談会の意見はどこまで反映されるのか。

(委員長)

- ・次回懇談会までに工事予定について確認したい。

(事務局)

- ・開発建設部の予定では24年度から工事に入るために法足が伸びたときに池の築堤側に商店があるが、商店が支障になる件をどうするかということを今協議している。協議の段階なので、それがどんな形になってくるのかまだわかっていない状況である。そこが整理できれば24年度から着工するという形で計画していると聞いている。

(委員長)

- ・かわまちづくり事業も事業採択されてからまだ日が浅く、その後に震災があり、これからは確かによくわからない部分もあると思う。

(事務局)

- ・国には緩傾斜をどこまで幅を広げるかという話も含め、こういった整備の意見があったというのは伝えていく。
- ・市で考えている測量と設計は、用地を確定する測量の受託とここで議論していただいたものの図面などを作成するもの。今後の測量設計に反映させる基本計画が出来れば、来年から実施設計に係わっていくという予定である。
- ・樹木については堤防に係る樹木の調査を行っており、一部河川敷、堤防の樹木についての調査は完了している。次回以降の懇談会に、整理出来しだいその資料をお見せする。

(委員)

- ・今回この常磐公園の事業がどういう目的でやっているのか伝わらない。常磐公園に人が多く来るように変えるためなのか、今のままの木などが残っていて、それを整備だけして人が来ないままなのか、どういう整備をしたいのかがわからない。

(委員)

- ・前回の検討会議で、堤防の幅を広げて河川敷に駐車場を造る、大型バスもすぐに帰れるようになると開発建設部から説明があったし、もうそうなるのだと私も思っていた。

(委員)

- ・常磐公園の魅力とは何なのか、なぜ人は集まるのか、そこを議論する必要があると思う。利便施設を造れば人がいっぱい集まるのか、それとも木を残せば人が集まるのか。あるいはそういうことではないのか。いろいろな視点があると思う。
- ・公園の中には先人が残してくれた樹木を含めた自然の遺産があり、今の常磐公園のひとつの魅力となっている。今後子供達にこの常磐公園の何を残していくか、我々だけが快適で便利に利用するだけでなく、そのことも考えなければいけない。ただ、いつか樹木

には寿命がくるので、検討の要素として緑の世代交代をどう図っていくかは考えなければならぬ。でも、この場でその議論が出来るかというと、その道の専門家が集まっている訳ではないので、私は非常に難しい部分があるような気がする。

オブザーバーとして専門家を置いて、プロの意見を聞きながら世代交代の問題は検討してはどうか。

(委員長)

- ・整備方針として「地域資源を活かした都市空間の形成」とあり、これは物事としてそうだと決めてきた。それが次世代に向けて、何を形成すべきか、共通のこの場の認識としてどう評価するか、私たちが思っていることを表現する場が必要だと思う。
- ・結論を急ぐのではなく、立場や背景を話し合い、考え方は違うけれど、歩み寄れる点を見つけたい。お金をかけて整備する以上、意見を言って、立場が違うこともあったうえで、なんとか整備する方向で次回以降の話を進めたい。

(副委員長)

- ・今日新たに「川のおもしろ館」が閉館になる見通しを聞き、芸術ゾーンとしての整備について改めて考えさせられた。文化施設の一つが無くなる事は残念だが、公園内の建物・施設などについて、その状況の変化も考えなければならない。前の検討会議での意見を踏まえて検討を進めることは皆、同じ思いと思う。
- ・人は最初に見た景色が最初からそうであったかのように思いがちであるが、実際にはそういう訳ではない。今年、植えた木も60年後には成長し大事な木に育つ事だろう。現在の公園風景もそうして形成されてきた景色であり、そうした時間経過を考慮しながら計画すべきものと思う。例えば10年後とか12年後とかを一区切りとして50年、100年といった長期的な観点をもって臨んで欲しい。今日、その観点から見ると今の公園内の緑は質が低いという意見を聞き、意外に思った。そうした意味では公園内の緑も新陳代謝も必要な緑があり、その新陳代謝せざるを得ない面もあることを感じた。
- ・変化の大きい時代にあって長期的観点を持つことには困難もあろうが、そうした観点に立って整備計画が少しでも実現されていくことを願っている。

(事務局)

今回は、現地見学会を行い、その後検討課題の整理および整備内容の検討というスケジュールになっています。

—以上—